

子どもの成長には『遊び』がとても大切で、『遊びの場=学びの場』というのはよく言われています。しかし子どもは最初からみんなでわいわい遊ぶわけではありません。子どもたちが成長していく中で『遊び』というものはどんどん変化し、一人遊びから友だちと共有するものになっていきます。「お迎えに行くけど、いつも一人で遊んでいる…」、「～ちゃんが遊んでくれないと言っているのが心配…」など、お子さんの声を聞いたり、遊んでいる姿を見たりして、お子さんの遊んでいる環境や育ちがちょっぴり心配になることもあるのではないのでしょうか。

そこでお子さんの育ちのひとつの目安として、園でも大切にしている『遊びの発達段階』についてご紹介します。

0歳から5歳へ、そして学童期へ、発達や学びはつながっていきます

人は周囲の環境に自ら働きかける力をもつ

- ◆人は生まれながらにして、自ら育つ、周囲の環境に能動的に働きかけようとする力をもっています。
- ◆幼児の心身の諸側面は、それぞれが独立して発達するものではなく、遊びの中で相互に関連し合って発達していきます。
- ◆幼児期は自己を表現することが中心の生活から、他者と関わり合う生活を通して、自我の発達の基礎が築かれていきます。



0歳
愛おしく抱かれて
すくすく育つ

1歳
自分で歩出し、
世界と出会う

2歳
イヤイヤニコニコ
いろいろな気持ち

3歳
やわらかいことが
いっぱい

4歳
自他を意識し
気づく

5歳
自己を認識し
学びへの向かい

自ら学ぶ
小学生
中学生

青年

大人

★視覚、聴覚等の
感覚が育ち、座る、
這う等の運動機能
が発達します。
特定の大人との関わり
を通して、情緒的
な絆が形成されます。

★身体的な成長
や感情表現の成長
が顕著な時期です。
手で物を握るか
ゆめ、道具を使うよう
になり深さが広が
ります。

★自我が芽生え発達
します。言葉も増
えてきて、おしゃべ
りが楽しく友達と
同じ動きを連し
ていようになります。

★言葉も滑らかにな
り一人でできること
が増えます。「これが好き!」も
っとやりたい!と自
分の気持ちを言
いながら遊ぶよう
になります。

★言葉や運動が飛
躍する時期です。あ
いさし、経験を重ねると
同時に、自己主導し
友達とつながるなど
情緒体験を通して友
達の思いにも気づき
ます。

★友達と力をわか
せて遊びや生活を
作り上げる満足感
や、自分の思いを
表現して遊びを創
り上げる達成感を
味わい、自信を行
いやすくなります。

家庭と園で連携し、協働して育てる

- ◆生活の場で対人関係の広がりに伴って、興味や関心が様々な対象に向けられる中で思考力の基礎が培われていきます。
- ◆幼児期の教育は、家庭と園で行われ、両者は連携し、協働して一人一人の育ちを促すことが大切です。

<表記の説明>
★発達の特徴
◆保育者や保護者の関わり方のポイント

【安心・発達】様々なものや人との関わりを深め自分の世界を広げていく
【安心・安定+広がり】様々なものや人との関わりを通して好奇心・探究心・協同性等が育つ
【安心・安定】幼児が健やかに育つ基礎

<0ヶ月～3ヶ月くらい>
（何もしない行動）
子どもが何もしない状態で見ているだけの状態です。興味あるものに対しても行動に移さず、目で追っただけで何もしようとしません。

<0ヶ月～2歳くらい>
（一人遊び）
他の子どもと関わろうとせず、一人で遊んでいます。たとえ近くに友だちがいたとしても、ほとんど興味を示さず、自分だけの遊びに没頭している状態です。

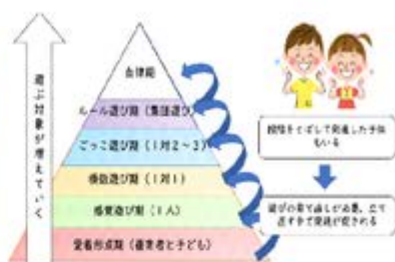
<2歳～3歳くらい>
（①傍観者行動）（②平行遊び）
① 友だちが遊んでいる姿をただ眺めているだけの状態です。話しかけることはありますが、一緒に遊ぼうとするはまだありません。
② 友だちの近くで同じ遊びをする状態です。近くで遊んでいるものの、関わろうとはしません。しかし、友だちに興味をもっている状態ではあります。

<3歳～4歳くらい>
（連合遊び）
友だちと一緒に同じ遊びをしているように見えるものの、それぞれが好きなことをしている状態です。ままごとを一緒にしているように見えても、役割分担などはなく、個々の遊びに夢中になっていることが多いです。

<4歳以上>
（共同遊び）
役割分担が決まった遊びを友だちと一緒に楽しんでいる状態です。ままごとでは「お母さんは～ちゃん」「お姉ちゃんは～ちゃん」など、子どもたちで役割分担を決めながら遊ぶ姿がみられます。遊びの中にルールも存在し、みんなで一つの遊びを展開していきます。

遊びの発達ピラミッドについて

- 1 **愛着形成期** (養育者と子どもで関わりながら遊ぶ段階)
 - 2 **感覚遊び期** (ガラガラ:聴覚、メリーゴーランド:視覚、高い高い:平衡感覚等の感覚刺激を楽しむ段階)
 - 3 **模倣遊び期** (養育者のモノマネをして遊ぶ段階)
 - 4 **ごっこ遊び期** (おままごと、お姫様ごっこ、ヒーローごっこなどを楽しむ段階)
 - 5 **ルール遊び期** (鬼ごっこ、すごろく、ボードゲームなどを楽しむ段階)
 - 6 **自律期** (相手に合わせて、自分は我慢をして遊ぶことができる段階)
- 7 子どもは1~6まで概ね段階を追って遊びを変化させていきますが、それぞれの育ちによって年齢相應の段階より、かなり変化しているケースがあります。



一言で「遊び」といっても発達段階の内容はこんなに細かく分類されていて、一人一人がそれぞれ自分のペースで、興味のある発達段階の部分で遊んでいます。その姿から何に興味をもっているのかを、保育者が見極めて一人一人に合ったじっくりと遊び込める適切な環境を整えたり、段階の移行を考え少しずつ実践したりしているのがこども園での遊びとなります。ですからお子さんが一人で遊んでいても「発達する上で大切な過程のひとつ」として、何に興味をもって遊んでいるのかそっと見守り、受け止めていただけたらと思います。

朝、保育者が出勤して乳児室にあいさつに行き、「おはようございます！」と元気に言うと、中にいた2歳児の女の子に「しーっ！いま赤ちゃん寝てるから」と注意され、思わず「あ、ごめん…」と謝りました(笑)。

2歳の男の子。今までは一人遊びをじっくりと楽しんでいたのですが、ここ最近は友達との関わりを喜んでいて、遊びの中で「ありがとう」「ごめんね」「たのしいね」など、場面に合わせて友だちに素直に伝えている姿に成長やかわいらしさを感じました。

3歳児が園内で形探しをしていた際、事務室の中で冷蔵庫を指差し「先生、四角だ〜」「中には何の形があるかな?」と冷蔵庫を開け、覗いた途端「先生！丸たくさんあった〜！」とベットのボトルのお茶を見て教えてくれた姿がかわいらしかったです。

お母さんがお迎えに来て降園した後、園庭の芝生で四つ葉のクローバー探しをしていたようで、帰ったとばかり思っていたのに急にホールに入ってきて「先生にあげます！」と見つけたばかりの四つ葉のクローバーをプレゼントしてくれました。押し花にして今でも大切に取っています。

ほほちゃん人形の靴を眺めていた2歳児。小さな靴を突然自分の足に履かそうとしてみました。もちろんサイズが合わないで入りません。それを見ていた子が「〜ちゃん、靴小さくなっちゃったの？大丈夫?」と心配そうにしゃがみ込んでいた姿にほっこりしました。

1歳児が姉のいる保育室の前を園内散歩で通りがかったときに、ちょうど姉を見つけました。すると安心してどんと中に入っていく、保育室にあるアイス屋さんコーナーで他の大きい子にアイスを作って渡したり、レジのバーコードリーダーを電話のように耳に当てて「もしもし」のポーズをしだしていたのがとても可愛かったです。